

二〇二六年度

群馬県立女子大学 文学部 国文学科

転入学及び編入学試験

「日本語学・日本文学・中国文学（漢文学）
及び日本語教育学」 試験問題

試験時間

11時00分～12時30分

問題一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

時の右大臣のむすめ賜^{たま}へと、文^{フミ}をおもしろく作りて、内裏^{うち}に参りたまふとて、御車より通りたまふごとに、ついふるまひて、奉^{ほう}れはべるに、取りて見たまひ、「うけたまはりぬ。いま家にまかりて、御返りきこえむ」とのたまふ。大学に入りにつけり。殿に帰^{かへ}りたまひて、御むすめ三人おはしけり、大君^{おほいぎみ}に、「しかじかのことなむある。いかに」と聞こえたまへば、怨^{うら}じて、泣^なきて入りたまひぬ。中の君、おなじごと聞こえたまふ。三の君に、聞こえたまふ。「ともかくも、おほせ言^{おほせこと}にこそ従^{したが}はめ」とのたまへば、いと清^{きよ}げに寝殿つくりて、よき日して呼びたまふ。御消息^{ごそくし}ありければ、いと悲^{かな}しう、つるばみ^{つるばみ}注¹の衣^{きぬ}の破^やれ困^{こう}じたる着^きて、しりあたる注²沓^{くつ}はきて、ふくめる書の帙^ち取りて来^きにつけり。帳^{ちやう}注⁴の内に入りて、まづ、この文卷^{ぶんまき}を賜^{たま}へれば、取りたまはねば、篋^{たかむら}注⁵さして行^いけば、この君、皮の帯を取りて引きとめたまへば、とまりたまひにつけり。これを垣間^{かきま}見て、父おとど、見たまひて、「いとかしこうしつ」と喜^{よろこ}びたまふ。「出^いでて往^{むか}なまし。いかに人聞^{ひときこ}き、やさしからまし。いとかしこきことなり」と喜^{よろこ}びたまふ。

(『小野篁集』より)

- 注 1 つるばみ …… つるばみ色。濃いねずみ色。
 注 2 しりあたる …… かかとのつぶれた。
 注 3 帙 …… 書物を包むおおい。

- 注 4 帳 …… 御帳台。
 注 5 篋 …… 小野篁。平安時代の文人。

問一 二重傍線部「おほせ言にこそ従はめ」を解答欄に書き写し、例にならって品詞分解しなさい。

【例】

形容動詞・ナリ 活用・連用形	名詞	格助詞	動詞・ラ行四段 活用・未然形	助動詞・尊敬 ・連用形	補助動詞・ハ行四 段活用・終止形	助動詞・推量・連体 形(撥音便無表記)	助動詞・伝聞 ・連体形	接続助詞
にはかに	宮	へ	渡ら	せ	たまふ	べか	なる	を

問二 傍線部ア「文をおもしろく作りて」を現代語訳しなさい。

問三 傍線部イ「よき日して呼びたまふ」とは、誰のどのような行動か、説明しなさい。

問四 傍線部ウ「いとかしこきことなり」とあるが、そう思ったのはなぜか。説明しなさい。

問題二

次の問に答えなさい。

問一 白樺派について、具体例を挙げて説明しなさい。

問二 芥川龍之介の文学活動について、具体例を挙げて説明しなさい。

問題三

次の各問いに答えなさい。

問一 母音と子音について説明しなさい。

問二 接辞について、その具体例をあげて説明しなさい。

問三 古典語における格助詞「が」について説明しなさい。

問題四

次の文章は、群馬県の学生が明治十四年、文芸雑誌に投稿した漢文である。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、原文の返点は現行の返点に改めてある。

均是花也。而有_下為_上二人所_レ愛者_上、有_下不_レ為_上二人所_レ愛者_上。何哉。人之愛_レ花也、非_下徒愛_上其花之艷_一而已_上。蓋有_下必可_上甚愛_一者_上而愛_レ之也。抑梅者、凌_上嚴寒_一不_レ畏_上雪霜_一、挺然先_上於衆花_一而開_レ花矣。夫凌_上嚴寒_一不_レ畏_上雪霜_一、而遂開_レ花者、即梅之節操也。馥郁放_レ香者、即梅之芳烈也。是人所_レ以深愛_レ梅而不_レ措也。人深愛而不_レ措焉者、是愛_上其芳烈与_上節操_一也。便知人而有_上節操_一如_レ梅、有_上芳烈_一亦如_レ梅、則其愛_レ之。豈啻如_レ愛_レ梅哉。然而節操芳烈、而能不_レ愧_上於此梅_一者、天下果幾人乎。噫_上。

（『穎才新誌』第二百九号「梅説」）

【注】挺然…拔きん出るさま。 噫…ああ。嘆息の声。

問一 傍線部（1）を現代語訳しなさい。

問二 傍線部（2）を書き下し文に改めなさい。（歴史的仮名遣い）

問三 傍線部（3）の指示するものは何か。本文から抜き出しなさい。

問四 傍線部（4）を現代語訳しなさい。

問五 傍線部（5）について、作者はなぜ「噫」と記すのか、その理由を簡潔に説明しなさい。

問題五 次の各問いに答えなさい。

問一 言語転移について説明しなさい。

問二 フォーカス・オン・フォームについて説明しなさい。